



Rotary  
Club of KOBE EAST



# The Rotary club of Kobe East BULLETIN



神戸東ロータリークラブ会報 No.394 2021-2022 No.1

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／森本 一裕 副会長／三戸岡 英樹・塚本 哲夫・植村 孝一 幹 事／工藤 恭孝  
広報委員長／和田 真一 副委員長／森本 光一  
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日



クラブ会長テーマ 『「質素剛健」「自重自治」ふんわりわくわくロータリーライフ』



SERVE TO CHANGE LIVES

RI President *Shekhar Mehta*

SHEKHAR MEHTA  
2021-2022年度国際ロータリー会長





2021-22年度 神戸東ロータリークラブ

第68代会長 森本 一裕  
理事

まずは年齢の話からさせていただきます。

私の年齢は現在72才、工藤幹事は71才で会長、幹事共直近二十年間では最高齢だと思います。

又、我々二人の合計年齢は143才に成り、十年前の塚本会長、山崎幹事年度、三年前の澤田会長、山本幹事年度の132才を大きく超えてクラブ新記録となりました。

又、正副幹事の合計年齢は何と363才にも成ります。これはおそらく日本一に成ったのではないかと自負しております。

こんな高齢者の我々三役を一年間暖かく見守って頂きます様よろしくお願い致します。

続いて今年度の会長幹事誕生の経緯を曝露しておきたいと思います。

私と工藤幹事とは高校の同級生なのですが、二年前の須藤年度の時、工藤君が職業奉仕委員長、私が副委員長をしておりました。

職場訪問でキンビールさんの神戸工場に行った時の事です。

試飲と称して、何杯もビールを飲んで帰るバスの中で工藤君が隣に座って来ました。

「森本ちゃん！今度、会長せえへんか？ 僕が幹事するから。」と突然言って来たのです。

「無理無理！人前で話すのが一番苦手な僕にそんな出来る筈ないやろ！」と言うと

「あんなあ、会長報告なんか毎回せんでもええねんで。今日は会長報告無し！で済ましはった僕等の先輩も居はったで。僕が幹事したらそうしたから大丈夫や。」

二人共、随分酔っていたのでその後の顛末は定かではありませんが、その時の会話が今回の会長幹事決定の引き金に成りました。

ビールだけに「泡を食った苦い苦い思い出」です。それでは今年度の会長テーマについて説明させていただきます。

今年度の会長テーマを『「質素剛健」「自重自治」ふんわりわくわくロータリーライフ』と致しました。

「質素剛健」「自重自治」これは私と工藤幹事が卒業した高校の網領で、百十数年前の創立当時の網領です。

「質素剛健」とは華美に走らず、物事をシンプルに考え、いつまでも若々しく健康である事です。

「自重自治」とはロータリーの四つのテストを実践し、自分達の事を自らの責任において処理し、主体性、多様性、独創性を持って行動する事です。

今回はこの「質素剛健」「自重自治」を三人の副会長さんに担当して頂きます。

「質素剛健」は断食健康法や合気道を極めておられます三戸岡副会長に。

「自重自治」は以前、兵庫県公安委員会委員長を努められ現在は兵庫県交通安全協会会長を努めていらっしゃる塚本副会長さんと、他人に厳しいと言われております植村副会長さんをお願いしたいと思っております。

今回のコロナ禍のお蔭で私の考えるロータリークラブの魅力という物がより明確に成った気がします。

幅広い年代、幅広い職業の会員が週一回一堂に会し、歌を歌い、同じ料理を食べる事で生まれる「連帯感」、各種の奉仕事業をやり遂げた時に生まれる「幸福感」と「達成感」そして数多くの同好会活動で得ることの出来る「親近感」を体感する事は無上の喜びです。

会長幹事は一年で交替しその活動内容は年によって変わりますが、我クラブ独特の「ふんわり」とした雰囲気は長年の積み重ねで生まれた宝物です。

今回のコロナ禍で疲れきった我々の心を癒してくれる特効薬は会員同志の和顔愛語（穏やかな表情と心やさしい言葉）です。

毎週火曜日が待ち遠しく成る様なクラブ創りが私の理想とする所です。

ただ私はここしばらくは火曜日が近づくのが苦痛でたまらないと思います。

こんな会長ですが一年間どうぞよろしくお願い致します。





副会長  
理事  
奉仕プロジェクト委員長  
三戸岡 英樹

約一年半が経過するコロナ禍の中でロータリークラブも会員減少を含めその活動は制限されていると言わざるをえません。皆様お一人お一人のお仕事も深刻な影響を受けておられ私を含め左うちわでない方がほとんどではないかと推測します。今期3人の副会長選任という従来にない体制になりその一人に選ばれたことはやはり私が医療人であることに帰すると思います。現在 COVID-19 と命名されたこのウイルスは変異を繰り返し人間が行うワクチンなどを含めた防疫体制を巧みにくぐりぬけ感染力を増しながら Sars, Mars といった以前によく似たウイルスと比較しても致死率は高くなく、宿主の人間の所作をあざ笑うように生き延びています。このウイルスを季節性インフルエンザと同じだと言う方もおられますがそれは違います。コロナ禍になってから季節性インフルエンザはほぼ影を潜めており、また以前インフルエンザが流行っている時期に現在のようにそれが原因で医療の供給がひっ迫することはありませんでした。季節性インフルエンザにはタミフルという特効薬がありますが COVID-19 に対して私たちは今だそのような特効薬を持っていません。感染力は強く、それほど致死率は高くなく、宿主である人間を簡単に殺すことなく、長い時間軸で私たちを苦しめる本当にたちの悪いそして一筋縄で

はいかないウイルスなのです。なぜこのようなウイルスが今この時代に出現してきたのか。COVID-19 の発生については自然発生と共に人為的発生説もありますが、私たち人類が行ってきた自然、地球、宇宙に対しての行為そのものが発生の引き金になったことは間違いなく感じているのは私だけではないと思います。そしてワクチンを含めた現在医療が100年前のスペイン風邪の時代とどれほどの違いをもたらしているかを考えるとこのウイルスは人間の慢心をせせら笑っているようにすら思えてならないのです。もっと自分の足元を見よと。人間には病気を回避する免疫系というシステムが備わっており一つの分類の仕方では自然免疫と獲得免疫の二つに分けられます。現在のワクチンはこの内の獲得免疫系に働くものであり言い換えればウイルスが身体に入った後（感染後）作動するシステムの増強です。身体に入る前（感染する前）に作動し感染を食い止めるシステムが自然免疫系です。獲得免疫ばかりに目を奪われがちな昨今ですがこの自然免疫系を高めることを私たちは忘れがちです。自然免疫を増強する最適な方法はその70%を占めると言われる腸内環境を整えることに尽きます。食、運動、心の安定がその方法です。孫子の兵法に「敵を知り己を知れば百戦して危うからず」という言葉があります。私たちは敵を知ることばかりに注心し己を知ることをおろそかにしているのではないのでしょうか。このコロナ禍の時期を森本会長が言われているように一人一人が「変毒為薬」、毒を薬に変えるようなマインドシフトを行う、敵を知ると共により己を知ることにより目を向ける、それができれば未来は決して暗くないと確信します。COVID-19 も将来必ず現在の季節性インフルエンザと同じような状態になることはウイルスの歴史の中で明らかです。それがいつになるかはだれもわかりません。ある日突然波が引くように消えてゆくというのが私が想像するコロナ禍終息のイメージです。その後の未来に生き延びられるように今はその時期を夢見ながら精進するしかないと思うのです。しっかり足元を見据えて。



副会長  
理事  
公共イメージ委員長 塚本 哲夫

副会長を引き受けるに当たって、抱負、希望等を述べよとのことあります。

残念ながら私は今それらを持ち合わせておりません。しいて言うならば、当然の事として森本会長を助けて、神戸東ロータリークラブのために何らかのお役に立てれば良いと思っています。

何故に副会長を3人も指名されたのか。各々の役割はどうか。

まあそんな事は今はどうでも良いことにしておきましょう。

副会長という立場は、あまり表に出ることなく会長の影にかくれて見えない方が良いと思っています。私は、三役の中では最高齢であり、今回の任期中に八十路を迎えます。

今まであった役職が私からどんどん離れていっている時に副会長という新しい役職が舞い込んでくることは嬉しいことでもあります。

2021 - 22年度は、どんな年になるのでしょうか。コロナ禍はどうなるのでしょうか。

オリンピックは？パラリンピックは？あらゆる環境変化に上手につき合いながら生き延びましょう。一年後が楽しみです。

森本会長の組織運営方針を私なりに解釈し、行動することになるでしょう。

明るく楽しくそして活動的にやりましょう。

奉仕活動のためのお金は必要ですが、その為の会員増ではありません。

我々には同じ時に同じクラブの仲間という運と縁があります。

この運と縁を大切に生かして充実した一年を楽しみましょう。





副会長  
理事  
クラブ管理運営委員長  
**植村 孝一**

神戸東ロータリークラブの最後のご奉仕のつもりで2度目の副会長をお引き受けした植村です。

これからの1年楽しかったなあ、やって良かったなあと皆さんにも思ってもらえるようなロータリーライフにするべく私なりに努力するつもりです。

皆さん方もいやがらず、こわがらず、楽しく、有意義な神戸東ロータリークラブが継続できるようご協力の程、よろしくお願い致します。





幹事  
理事 工藤 恭孝

このコロナ禍で例会は不要不急の集会として見なされ休会を余儀なくされました。それでも須藤・鮑年度と2期に渡り、工夫を重ね会を継続してきました。大変な運営をこなされたことに心より感謝致します。

ただ このままでは会の存在意義が問われかねません。

当年度は、通常例会を再開し、直接集う価値を再認識してもらいたいと思います。なぜ定款・細則に出席義務規定を細かく定めているのかを読み直す必要もあるでしょう。

1. 楽しいながらも規律ある例会
2. 理事会の協議機能の強化
3. 事務的作業の簡素化

以上の3点を運営課題といたしますが、会員の皆様には寛容の心で稚拙な運営を見守っていただけたらとお願い致します。





2020-21 年度神戸東ロータリークラブ

第 67 代会長  
理事 鮑 悦初

とうとうこの日、「退任挨拶」を述べる日が遣って来てしまいました。

“この3人で、もっと長くやりたいね!? クーデターをおこそうか!?”と大澤副会長、樋口幹事に話したら“無理です!カッコ悪いからやめましょう!”って頼りにする側近の二人に一蹴され、クーデターは未遂どころか、計画もされませんでした。(笑v)

思い返せば一昨年、12月の第一回理事予定者会議でキックオフ、2020-21年度船出の準備を重ねて来ました。

『ロータリーライフ“面白く!楽しく!カッコ良く!”』2020-21年度の会長モットー、活動の旗印として各委員長の皆さんにお示しし、各委員長への「諮問事項」にはモットー、旗印に沿って、多くの要求を盛りさせて頂きました。

個人的に、私は神戸東 RC の様な 100 名を優に超すクラブには、皆が共感する視点・価値観、何か拠って立つ御旗、活動理念の様なモノがなければ、一体感のある強いクラブであり続けるのは難しい!?と考えていました。視点・価値観がバラバラでは、永く組織を維持することも難しいのでは!?とも考えていました。

他方、我々一人ひとりの視点・価値観はクラブの親睦や奉仕活動、ラウンドテーブルや例会等々に、自ずと我々神戸東 RC の味、色、匂い「神戸東 RC らしさ」として表れる!?!「神戸東 RC らしさ」が我々のクラブの視点・価値観として収斂されて行く!?!とも考えていました。そんな私の勝手な考えで、兎に角 2020 - 21 年度の RC の親睦、奉仕、そして毎週の例会など、全ての活動、R ライフを一年間、皆が面白く!楽しく!カッコ良く!遣れることに全集中し、例会で叫び続けました(笑v)。

会員の皆が「自分達のクラブの活動が面白い!楽しい!」となれば、更に一体感のある強いクラブとなる!そして、「我々の姿がカッコ良い!」となれば自ずと入会希望者が増える、会員増強に繋がる!とも考えていました。

これは論語の『近者説 遠者来』“近き者説(よろこ)べば、遠き者来(きた)る”の教えと、自社の会社の標語の1つ“面白くなければ志事じゃない!楽しくなければ会社じゃない!”の考えから来ています。

“近き者説(よろこ)べば、遠き者来(きた)る”これは中国の春秋時代、孔子が弟子を連れて諸国をまわっていた時の話です。当時の中国は大小約十二の国に分かれ、互いに自国の存続と勢力拡大を図っていました。楚の国で、君主の葉公が“国を立派に治める政ごとの要諦は!?”と孔子に尋ねました。子曰く“近き者説(よろこ)べば、遠き者来(きた)る”。つまり「近くの者、自国の民が喜ぶような政治をすれば、遠くの者、他国の民がそれを慕ってやって来る。人財が集まり国の力となる」。私は横で聞いていたわけではないですが!?(笑v)

そして“面白くなければ志事じゃない!楽しくなければ会社じゃない!”これは、「人は面白くないことを長く遣り続けることは出来ない!楽しい会社でなければ人様が働く会社としての価値はない!」



と言う我が社の価値観の1つです。

私はロータリーについての理解も浅く、決して熱心、真面目なロータリアンではありませんが、当時の会長指名委員会の吉井委員長が色々悩んだ末に、迂闊にも私を指名され、私は大胆不敵にも指名を受託してしまいました。そして大澤 勇会員が副会長、樋口一哉会員が幹事を引き受けて頂くなど、多くの皆さんに支えて頂いたお陰で、何とか無事に退任の日を迎えることが出来ました。はたしてどれだけ所期の面白く！楽しく！カッコ良く！いけたでしょうか！?

コロナに始まり、コロナに終わる。本当にコロナ禍に翻弄され、呪われた様な一年でありましたが、須藤会員には直前会長として、松下、中井、両会員には相談役として、Rに無知、トンチンカンな発言をする私に多くのアドバイス、指導をして頂きました。コロナ禍で「オンライン例会」への挑戦では山本（裕）会員に助けて頂き、また多くの会員の皆さんが「オンライン例会」に参加して頂き、神戸東RCの例会としての体裁を保ってくれました。

困難な状況の中でも植村（浩）委員長はじめ社会奉仕委員会の皆さんは頑張って「青陽東養護学校・友生支援学校の生徒への招待ボウリング」、「神戸市医師会への新型コロナウイルスPCR検査機器設置プロジェクト」、「HAT神戸の小学校・特別支援学校建設記念植樹事業」等々、計画していた多くの奉仕事業を実行してくれました。この幾つかの事業は神戸新聞や月刊KOBEBECCOに、記事として紹介されました。この様な我々の社会奉仕事業に対して神戸市医師会置塩 隆会長から感謝状を、神戸市久本喜造市長からは感謝状と「花時計賞」を頂戴致しました。

退任を迎えて残念に思うのは、コロナ禍の影響で各委員会が企画、予定していた多くの親睦や奉仕事業が中止となり、各委員長はじめ委員会の皆さんが

主役となって活躍する舞台、会員皆さんに参加する機会を提供できなかったことを、大変申し訳なく、心残りに思っています。政府の「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」等々が発令される混乱の中で、大澤副会長、樋口幹事はクラブの運営、皆さんのモチベーションの維持に！藤井プログラム委員長は卓話者の調整に！和田（真）委員長は毎回の週報の発行に！渡邊委員長はオンライン例会で無人でも受付に！須藤 S.A.A. はカメラ越しのニコニコに！会員の皆さんは初めてのオンライン例会に！混乱する中で全員が奮闘してくれ、クラブを支えて頂きました。「疾風に勁草を知る」、「盤根錯節に遇いて利器を知る」って言葉がありますが、我々神戸東RC「コロナ禍」の困難な中でも、結構イケていたと思います。皆さんの友情、支えに感謝の言葉も御座いません。只々感謝！感謝！感謝です！！

昨年5月、須藤会長から頂いたバースデーカードに2020-21年度を予感したのか“鮑さん、えらい時期に会長を受けてしまいましたね!?”と書いて有りました。また予定者理事役員会で会長モットー“面白く！楽しく！カッコ良く！”を皆さんに示させて頂いた時に、森本会長ノミニーから“鮑ちゃん、カッコ悪い方が面白いんちゃう!?”って突っ込まれ、“カッコ悪くなったら如何しよう!?”ずっと私の脳裏をはなれませんでした!?

もっと沢山の成果をあげて「カッコ良い退任挨拶」をしたかったのですが、会員数も減少、カッコ悪い年度となってしまいました。今、須藤会員と森本会員の言葉に「デジャヴ」を感じています。皆さんに“鮑ちゃん一年間面白かったよ!?! 楽しかったよ!?”と笑って頂けたら幸いです。(笑v)

“神戸東RC ライフ、面白く！楽しく！カッコ良くいきましょう！”一年間、本当にお世話になりました！改めて皆様の友情に感謝申し上げ退任挨拶とさせていただきます。



副会長  
理事  
クラブ管理運営委員長 大澤 勇

鮑会長のテーマは「ロータリークラブライフ “面白く！楽しく！カッコ良く！”」でした。

今期当クラブ例会の会長報告において、縮めの言葉には必ずこのテーマが出てきました。

今期ほど会長テーマを会員の皆様に意識づける為、挨拶文に・委嘱状に・表彰状の文面にこのテーマを連呼した会長は過去には無いものと思います。ロータリーに参加している事の意味や目的を会員に再確認して頂きたいという会長の思いを、私は強く感じました。

副会長としての職務①三役の結束に配慮し、連絡を密にする。②各委員会の会合に出来る限り参加し委員会の情報を吸い上げる。③事務局との連絡を取りながら、最新クラブ情報を三役で共有する。以上の点については概ね出来ました。もう一つ④会長挨拶の代読・代弁に関しては、鮑会長が例会には1回たりとも欠席されなかったのが、誠に残念です（笑）が機会がありませんでした。但し一度だけ、年次総会の時に議事があまりにも早く終了したので、残り時間を捌くために「頭のトレーニングクイズ」を急遽実施した事を記憶しています。

これも、「面白く！楽しく！カッコ良く！」の一

環でした。

クラブ管理運営委員長としては副会長職務と重なりますが、今期当初には緊急事態宣言が出ておりませんでしたので、所管6委員会の年初の委員会・合同委員会に参加する事ができました。会長の諮問事項の伝達・各委員会の年次目標などいろいろな話し合いをする事が出来ました。然しながら昨年度末から今年にかけて、3度の緊急事態宣言が発令される中で親睦・家族委員会の懇親会については殆どが中止となりました。又唱歌委員会についても、例会始めの合唱が長期間取り止めになったことは残念でなりません。数々の事業が中止になる中で、今年4月13日の創立67周年記念例会はコンパクトな形で実施され、金婚祝い・皆出席祝い・入会50周年表彰等が行われました。

今年度2680地区ガバナー月信で我がクラブに関する記事が3つ掲載されました。

1つ目は関本剛会員の著書『がんになった緩和ケア医が語る「残り2年」の生き方・考え方』の事です。著書中の言葉「私にできることがあるとすれば、医師と患者の両方の立場から癌という病気と向き合った記録を残す事しかない。」に壮絶な思いを感じました。

2つ目はコロナウイルスPCR検査室備品寄贈プロジェクト（地区補助金事業）です。

中井会員が提唱されたスタート時には非常に小さな動きだったものが、クラブ協議会で金田ガバナー補佐に直談判し、段々と流れが大きくなり、神戸第一・神戸第二グループを巻き込んだ事業となりました。昨年12月22日神戸市医師会館市民ホールでの贈呈式が行われ、高瀬ガバナーご臨席のもと、鮑会長から神戸医師会置塩会長に目録が授与されました。

3つ目はHAT神戸の小学校・特別支援学校建設記念植樹事業です。これも地区補助金事業です。当

クラブが長年支援してきた神戸市立青陽東養護学校の小学部・中学部と神戸市立友生支援学校本校の一部と分校の皆さんが灘区摩耶海岸通に新設された灘さくら支援学校に移転することになりました。本年1月14日に現地で高瀬ガバナー他ご臨席のもと、鮑会長よりさくら支援学校・福島校長に目録を贈呈し、関係者で植樹を行いました。

多くの事業が中止又は引継になる中で、上記3件は特筆すべき今期の事例になりました。

以上が退任挨拶です、有難うございました。





幹事  
理事 樋口 一哉

一年を振り返って

早いもので、鮑年度が始まり1年が過ぎます。コロナ緊急事態宣言1次明けでバタバタとスタートしたのが昨日のようです。須藤年度からの繰越金、基

本金を一部取り崩し前半の会費徴収をなしとしました。今考えると、危機が、2次、3次と発生し、休会、オンライン例会とせざるを得なくなり、後半は徴収せざるを得なくなりましたので、年会費を半額にした形になったのでしょうか。懇親会、家族会、青少年奉仕、VTT等全て中止とせざるを得ませんでした。社会奉仕活動だけは、何とか実施できて、良かったと思います。皆さんの協力でPCR機器の寄付、招待ボウリング、灘さくら支援学校での植樹が実施出来て嬉しく思っています。ハワイでのホスピスボランティア研修は次年度の引継ぎ案件としては是非ともおねがいたします。鮑会長の意に沿うクラブ運営ができず残念です。もう一度、会長幹事でやらせて頂きたい思いです(冗談)。また、事務局の方々には、大変お世話になりました。有難うございます。

コロナ下で疲弊した会社を立て直すべく頑張りたいと思います。ロータリー活動は、暫くゆっくりとなりますが、ご容赦ください。





職業奉仕委員長  
理事 吉田 博

## 1. 自己紹介、委員会メンバー紹介

職業奉仕委員長を拝命致しました司法書士吉田博でございます。

私は歳は取っておりますが、神戸東ロータリークラブへの入会は先月で7年、今月からちょうど8年目に入ります。未だロータリークラブの理念を理解していないのに大事な職業奉仕委員長を拝命してしまい心許ない限りです。森本会長らはこれを慮ってか、頭の良い小林一也さんを副委員長に、鮑年度の職業奉仕委員長であった山本康一郎さん、人生経験豊富なゴルフの上手い橋本豊捷（とよかず）さん、職業奉仕に詳しい前副会長の大澤勇さん、情報通の村井通浩（みちひろ）さんをメンバーに組入れていただきましたので、何とか職業奉仕委員会の役割を果たすことができるのではないかと楽観している処です。

## 2. 基本方針

神戸東ロータリークラブの定款第6条の2によれば、

「奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる

職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。」とあります。

会員の役割の前半はロータリアン一人ひとりの職業奉仕について、後半は組織的な団体としてのロータリークラブの職業奉仕について記載されているものと認識しております。

従いまして職業奉仕は二つあると考えます。

基本は、ロータリアン一人一人の職業奉仕についてであります。具体的などのように対応するのかと言えば、四つのテストを実践することになるのではないのでしょうか。

## 3. 四つのテストとは、ロースターに記載されています。

「言行はこれに照らしてから」

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

具体的な行動指針として、四つのテストを実践することになります。

この四つのテストは誰が何時作成したのか。

1932年、大恐慌の時代に、シカゴの実業家ハーバート・テイラーさんは倒産寸前のアルミ食器会社の再建を依頼されました。テイラーさんの手腕と努力によって会社は見事に立ち直り、10年後には一流企業に成長しました。この大成功の秘訣が「四つのテスト」でした。

テイラーさんは荒廃した社会風潮の中で、他社にない清廉な倫理観や世の中の模範となるような価値観を、わずか4行の分かりやすい言葉で作成し、全従業員に暗唱させ、日々の仕事の行動指針としました。

そして、テイラーさんは1954年、RI会長就任に



際して、「四つのテスト」の権利をRIに無償で譲渡したのです。以来、「四つのテスト」は、ロータリークラブの職業奉仕の理念を端的に表すものとして、世界中のクラブで提唱されているそうです。

#### 4. 久野元会員の著書

先月、退会された久野元会員の著書である「異論・正論 ロータリーを語ろう」を読みますと、職業奉仕の中核は職業倫理であると書いてあります。私どもの司法書士法第1条の「司法書士は、この法律の定めるところによりその業務とする登記、供託、訴訟その他の法律事務の専門家として、国民の権利を擁護し、もって自由かつ公正な社会の形成に寄与することを使命とする。」とあります。この使命を実践することが司法書士ロータリアンとしては、職業奉仕を実践することになるものと考えます。

#### 5. 具体的活動内容

- (1) 組織的な団体としてのロータリークラブの職業奉仕については職業奉仕を実践されている企業の職場訪問をし、実際の現場を学ぶ企画を立てる予定です。但し、コロナ禍の為、企画のみになってしまう可能性がありますので、ご了承下さい。
- (2) 職業奉仕月間において、職業奉仕を実践されている会員に卓話をお願いし、会員各自の職業奉仕理念を深めたいと考えております。
- (3) 奉仕プロジェクト各委員会への協力と支援も大事な活動であると理解しております。





社会奉仕委員長  
理事 横山 公一

本年度、社会奉仕委員長を仰せつかりました横山公一です。

一年間会員の皆様には事業へのご参加等お願い致します事になろうかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

委員会メンバーには副委員長に重しの利く重量級の藤井光造会員と委員は全員昭和40年代の生まれで活力旺盛な藤原崇晴会員・森本楽会員・高橋恵信会員と盤石な体制になっております。

具体的な活動内容としては2つございます。

1つ目は支援活動でプロバスクラブ活動支援とNPO法人クルーズ支援でございます。プロバスクラブのほうは先方の総会がコロナで中止となり、参加できませんでした。

2つ目は青陽東養護学校の招待ボウリングと友生支援学校の招待ボウリングです。

学校の授業のカリキュラムを4月に立てる必要があるため、2月から両校の先生と打ち合わせをして、すでに今年度の招待ボウリングの日程が決まっております。青陽東養護学校が1月14日（金）友生支援学校は1月28日（金）となっております。

本年度社会奉仕を担当させて頂くにあたり、社会奉仕とは何かを考えてみました。

日々仕事をしている中で職業奉仕というのはまだ理解しやすいのですが、社会奉仕となると、もひとつピンときません。

最初に考えたのは、私どもの企業規模で社会奉仕となるとハードルが高いのですが、ロータリーを通じて勉強する機会を与えてもらったと考えました。

そして、先週の例会でこの後ろにあります本年度RI会長テーマである（奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために）を見て、私なりに社会奉仕というものが、理解できたような気持ちになっております。

人の為に世話をし、奉仕をすることで、その経験を通じて誰かの人生でなく、自分の人生を豊かに出来るということのようです。

ぜひ会員の皆様もご自身の人生を豊かにするために社会奉仕事業来年1月14日と1月28日に行います招待ボウリング大会にご参加いただければと願っております。





国際奉仕委員長  
理事 山本 裕計

今年度の国際奉仕委員長を務めさせていただきます。会長方針の『「質素剛健」「自重自治」ふんわりわくわくロータリーライフ』を基に、神戸東ロータリークラブとして国際親善、国際平和を推進して、国際的な発展に寄与していきたいと考えております。

活動内容としては、以下の4項目を挙げています。

- 1) カンボジア病理技師・病理医育成支援プロジェクトの実施
- 2) ホスピスボランティアハワイ研修プロジェクトの実施
- 3) 2022年国際ロータリー大会（ヒューストン）への参加企画
- 4) シスタークラブのあり方を検討し、その交流および関係の発展

ただ昨年から世界的に流行している新型コロナウイルス感染症の影響で、渡航を伴う国際奉仕活動がどこまで可能か、動向を注視しながら進めていく必要があります。

カンボジア病理技師・病理医育成支援プロジェクトは、2018年にカンボジアのプノンペンメトロRCとの共同提唱事業として行ったVTT（職業研修チーム）事業に起源があります。2019年3月に多くの神戸東RCの会員の協力のもと神戸にて研修を

実施しました。同年8月には多くの会員がカンボジアの地に赴き、カンボジアでの現地検証も行い、セミナー形式の報告会も開催されました。2020年2月には、現地での病理検査センターの開所式典に参加しました。次のステップとして、2022年4月に神戸で開催される日本病理学会総会にカンボジアの病理医・病理技師を招聘し、カンボジア病理学会設立につなげていきたいと考えております。また来日時には特殊染色及び免疫組織化学染色法の研修を行い、帰国時には検査試薬を持ち帰って、カンボジア現地で診断ができるようにフォローしていきます。この結果、カンボジアの病理技師、病理医、医療機関の診断能力が向上し、最終的にはカンボジアの患者に恩恵が及ぶことを目指します。

「ホスピスボランティアハワイ研修プロジェクト」を本年10月にホノルルRCとの共同提唱事業としての補助金を得ながら実施する予定です。ホスピスボランティアである「神戸つむぎの会」のメンバー2名を、ホスピスボランティアの先進国であるアメリカに派遣して、日本のホスピスボランティアの技能向上を目指します。

2022年の国際大会は6月にアメリカ・ヒューストンで行われます。前年度はバーチャル大会となりましたが、開催時の日米の渡航が自由になれば、神戸東RCの会員に呼び掛けて、大会参加を企画していきます。

シスタークラブとの交流についても、現時点では困難ではありますが、各クラブとの交流をしっかりと行い、もし形骸化してしまっているシスタークラブがあれば関係を見直すとともに、これからの世界を見据え新しい交流先のクラブを模索していきます。

コロナとの共生の中で、多くの神戸東RCの会員が参加し、奉仕できるこれからの国際奉仕活動の礎を計画できればと考えています。すべての神戸東RCの会員皆様の国際奉仕活動へのご参加を歓迎したいと願っています。この一年間、よろしくお願い申し上げます。





青少年奉仕委員長 藤本 義洋  
理事

今年度、青少年奉仕委員長を仰せつかりました、藤本義洋です。

青少年奉仕委員会では、次世代のリーダーを育てると言う目的で、インターアクトとローターアクトがあります。

インターアクトでは12才～18才までの中学生、高校生が中心の奉仕クラブで地元でのボランティア活動や、海外のインターアクト会員（通称「インターアクター」）との交流を通じて視野を広げ国際感覚を養うとともに、社会奉仕と国際奉仕を通じて行動し、新しい文化を発見し世界市民として国際理解を促進し、学校と地域社会におけるリーダーとなるためのスキルを養い、地元と海外に友人を作り「超私の奉仕」の重要性を認識しつつ、ふんわり、わくわく楽しむこと。

ローターアクトでは、リーダーシップの能力を磨き世界中に友人を作りながら社会で起きたさまざまな課題に取り組むことへの意欲にあふれた18才～30才までの青年男女のクラブです。ローターアクトクラブは国際ロータリーの加盟クラブでローターアクトクラブでは会員自らクラブの運営と資金管理を行い、地域社会で意義ある活動や奉仕プロジェクトを企画・実施します。

これらのクラブの活動としてライラセミナーがあり毎年、香川県小豆島の神戸YMCA 余島野外活動センターにて3泊4日の共同生活の下、講義、リ

クリエーション等を通じて青少年指導者の育成を行っています。

その他にもロータリアンを模範として倫理、奉仕、親睦の理念について学べます。

次に昨年はコロナで中止となりましたが、永田萌先生と子供達の写生会です。

日時はまだ調整中ですが11月中に行う予定です。その時は100人位の子供達を集めたいと思いますので、ロータリー会員の方々にもお願いいたします。

つきましては永田萌先生がどれだけすごい人なのかを分かって頂ければメンバーの参加も募りやすいのではないかと考え、先生の簡単なプロフィールを紹介したいと思います。

出身地は兵庫県加西市で、京都市子育て支援総合センターこどもみらい館と姫路市立美術館の館長をつとめられていて、1987年にはボローニャ国際児童図書展グラフィック賞を受賞、2000年の淡路花博ジャパンフローラ2000においては、公式ポスターとマスコットキャラクター「ユメハッチ」のデザインを手がけました。

郵政省発行の「ふみの日」キャンペーン切手イラストを1982、1983、1984、1988、1990、1991年を担当し他にも多くのイラストが記念切手のデザインとして採用されています。

著書は130冊を超え多くの子供達に親しまれています。

神戸北野美術館では、原画を常設展示しており、一度足を運んで頂ければと思います。

このような立派な先生との写生会は子供達の一生の思い出になるのではないかと思います。

最後に「青少年交換留学生制度」はコロナの為、今年度は中止となりました。





2020-21 年度 職業奉仕委員長

山本 康一郎

## 私の職業奉仕

最初に職業奉仕委員長として、昨年の11月14日(土)に地区の職業奉仕セミナーに出席しましたので、その報告をいたします。講師は第2620地区のガバナーエレクト小林総一郎様で、演題はロータリーの正統『日本の職業奉仕』とされました。講演内容は、日本人が100年かけて育んできた「日本の職業奉仕」の概念について自らの考えを解説され「日本の職業奉仕」こそ、ロータリーの精神でありロータリーの宝と主張されました。

職業奉仕 (Vocational Service) とは、大変難解な四文字熟語であり、小林氏はRI的解釈での「自分の職業スキルを生かした奉仕活動」だけでなく、「生活の糧を得ると同時に人生の大きな部分であるその積み重ねが人をつくり、友愛を育み、人間形成をも担い、ひいては世のため人のためになるものである。」と日本の職業奉仕の深化を語られました。そして、「ロータリーの根幹は職業奉仕であり、日本の職業奉仕は職業に奉仕する。つまり、自分自身の問題としてとらえる。」と結論付けられ、少しは理解をすることが出来ました。

続いて私の職業奉仕は、一般社団法人 兵庫県建築士事務所協会での活動であります。業界活動は社業を継続することと同等に重要であると位置づけて

おり、ロータリー活動で学ぶと同様に、私自身の成長にも役立っていると思っています。

一方、協会員は中小、零細企業の集まりであり、誰かが業界の活動を無償でその任を担わない限り会の活動は前に進みません。私自身もその役割を担うことで時間も取られ、人間関係もギクシャクすることもあります。社業が将来の良き方向につながると信じて長年活動をしています。数年前に会長職を無事に終えることができましたが、現在も理事を務め活動を継続しています。

我々の会は、すべての建築士事務所が加入する会ではなく、個人の意思で入会をします。現在、会員数は県下で約360事務所ですが、会員には神戸東RCの会員も数名が加入し活躍して頂いており、大変心強く思っています。

会の理念は上部団体である日本建築士事務所協会連合会の憲章に基づき「建築や環境が文化の形成にしめる重要な意味を理解し、社会の健全な進歩と発展に寄与する」と宣言しています。しかし、理念に賛同し入会した会員は、個性あふれる建築士事務所の先生方であり、私も歴代会長と同様に会長として会を取りまとめていく作業は大変骨の折れる仕事でした。

26年前に阪神・淡路大震災が起こり、多くの尊い人命を失いました。その時から会との関わりが始まり、昭和56年以前に建った建物の耐震性強化が大きな課題となりました。大地震時でも最低限命だけは守れるようにと既存建物の耐震診断、耐震判定業務に取り組みました。事業は現在も継続していますが、多くの方々の努力により建築物の耐震性を高めることができ、少しは安全安心な街づくりに貢献できていると思っています。

結びとしては、今回、改めて考えさせられたのが「日本の職業奉仕」です。「自分の職業に奉仕し」、「職業で奉仕する」ロータリーの職業奉仕の「志」と私の職業奉仕とはかけ離れていますが、これからも褒章受賞者として恥じないよう、本業はもとより業界の活動並びにロータリークラブの活動も続けていく所存であります。引き続き、皆さまのご指導ご鞭撻を宜しく願いいたします。



福原 敏晃 会員

## 職業奉仕月間に因んで

こんにちは。ただいまご紹介いただきました福原です。

「職業奉仕月間」に因み、今からお話させていただけますが、正確にお伝えしたいので用意した文章を読ませていただきます。

私は、父から受け継いだ社会奉仕の精神を胸に、小さな洋菓子店を経営して参りました。

学生の頃、クリスマス前に、父の命を受け、当時は何も知らないまま白衣を着て家業を手伝っておりましたが、白衣の会社名を隠し、近隣の両親のいない子供たちが暮らす福祉施設「子供のいえ」へクリスマスケーキを届けておりました。

それが社会奉仕であることに気づいた時、私は父への尊敬の意を素直に表すことができ、長年の夢だった教師への道を捨て、お菓子の世界へ没頭していきました。

それから、あっという間に半世紀が経ち、私はお菓子業界の発展のため、業界の活動に邁進して参りました。

私が続けて参りました職業奉仕の活動は、神戸青

年会議所時代並びに神戸東ロータリーの活動に活かされております。

ここで沢山のことを語るより、皆様のお手元にお配りした拙著「学びのこころ」で神戸東ロータリークラブの勇往邁進な活動の数々をご一読頂けましたら幸いです。

この小冊子は受章のお祝いに無償で制作して頂いたものです。これまでの私の職業奉仕活動の様々なエピソードを語り、自室を大掃除して探し出した思い出の写真を、このような形にして残して頂きました。

一度は諦めた教師になる夢が叶い、大手前大学で教鞭を取ることになったことは、神戸青年会議所時代の活動がきっかけでした。

また、私の人生の節目となったあの阪神淡路大震災当時、偶然とは言え、次年度の神戸東ロータリークラブの会長、副会長、幹事をはじめ会員の皆さんが、次々と救いの手を差し伸べて下さったことも、これを機に是非ともお伝えしなければなりません。

5年前からのボレロさんへの職業奉仕活動は、私にとっても大きな意味のある活動でした。

神戸東ロータリークラブとして、1年目はコンベクションオープンやミキサーなどの什器・機器を寄贈し、技術指導をスタートしました。

2年目は内装工事を行い、環境整備を図り、商品のアイテムを増強しました。

集大成となった3年目には、作業工程を監修し、ルーティーンで効率的にお菓子作りができるシステム構築を指導しました。

こうした神戸東ロータリークラブの支援活動こそ、私の職業奉仕精神の礎であり、社会生活の糧となっています。

最後に楽しいエピソードを少しだけ聞いてください。



一昨年から昨年にかけて、私には3つの心躍るうれしい出来事がありました。

一つ目は、一昨年の11月。京都御所にお招きいただき、茶会にて天皇皇后両陛下との拝謁の機会を頂きました。皇后雅子様優しい眼差しには感銘を受けました。

二つ目はその翌月、皇居にて天皇陛下と、再び拝謁の機会をいただき、お言葉の中で国民の安寧を心から願われてました。直接お言葉をいただき感激しました。

そして三つ目、これが一番うれしかったことですが、以前、お嫁さんにしたい女優ナンバーワンと謳われた、かの女優・竹下景子様からお祝いにピンクの胡蝶蘭を頂きました！一生の思い出になります。

お配りしました小冊子に写真を添えておりますのでご覧いただけますと幸いです。

これらの出来事は、神戸東ロータリークラブの皆様のお力添えがなければ実現しなかったことと、この場をお借りして心より感謝申し上げ、私の卓話とさせていただきます。

ありがとうございました。





司法書士 吉田 博

## 「夢のような3日間と幻の祝賀会」

### 1. プロローグ

職業奉仕の理念にそぐわないかもしれませんが、「夢のような3日間と幻の祝賀会」をテーマに卓話をさせていただきます。令和元年の8月下旬、突然に神戸地方法務局「総務課」から、事務所に電話が入りました。登記課でなく総務課からの電話でしたので、良い連絡なのか悪いことなのかどちらかで多少不安がありました。8月中旬の信号無視による交通違反が早くもばれたのかなと考えつつ受話器を取ると、勲章（旭日双光章）の受賞内定の連絡です。

誠におめでとうございますと、そして次にお受けになりますか？と問われました。ということは受賞を断る人もいるようで、意外でしたが、私は断る理由がないので、即お受け致しますと回答しました。それからは共に参加する妻と共に準備が大変でした。叙勲は司法書士歴49年の結果です。

### 2. 夢のような3日間

勲章伝達式は令和元年12月11日（水）で、前日と当日はザ・キャピトルホテル東急を日本司法書

士会連合会（以下「日司連」という）で手配してくれて、宿泊費（朝食付き）も日司連が負担してくれました。

前日の12月10日は、主として妻の貸衣装・ヘアメイク等の予約に時間を充てましたが、時間に余裕がありましたので、国会議事堂、首相官邸、議員会館等を見て回り、国会開会中でしたが、司法書士法改正等でお世話になった地元選出の赤羽一嘉衆議院議員の部屋を表敬訪問しました。秘書のお姉さんである赤羽艶子さんが丁寧に対応して下さり叙勲のために来ましたと申し上げ、赤羽議員には祝賀会に是非ご臨席いただきたいと要望しておきました。

当日の11日は大忙しのスケジュールで、

- ① 午前10時50分  
茶話会（法務省主催・法曹会館）
- ② 午後0時20分  
受章伝達式（法務省地下1階 大会議室）
- ③ 午後1時50分  
天皇陛下拝謁（皇居「春秋の間」）
- ④ 午後4時10分 写真撮影（ホテル）
- ⑤ 午後5時30分 小宴（日司連主催・ホテル）

3日目の12日は、特段の予定はなかったので、ホテルの近くの赤坂BiZタワー、赤坂サカスなどを散策し、夕方、帰路につくべく東京駅に向かいました。新幹線のプラットフォームで、妻が「夢のような3日間」やったね～と言ってくれました。

### 3. 幻の祝賀会

令和2年、2020年は私にとって、又、皆様方にとっても忘れられない年になりました。

新型コロナウイルス「以下（コロナ）という」は中国の武漢から発生したとされている。日本では、令和2年2月のクルーズ船の隔離停泊以来、大きな問題となってきました。令和2年3月29日には、コロナによる肺炎で志村けんさんが70歳で死亡し、同年4月23日には、同様に、岡江久美子さんが63



歳で死亡しました。この二人の有名人の死亡により、コロナに対する緊張感が社会の中に充満したと思う。

令和2年4月7日には、5月6日を期限として、兵庫県を含む13都道府県を対象として新型インフルエンザ等特別措置法による緊急事態宣言が発出され、4月16日には、この宣言は全国に拡大された。この宣言により国民は様々な自粛を求められた。この宣言は一度延長されて、5月21日には、東京などを除き解除され、5月25日には、全て解除された。

又、令和3年1月13日に、再び兵庫県に緊急事態宣言が発出されました。

多くの方が大なり小なり影響を受けておられますが、私は個人的にこの新型コロナウイルスにより大きな影響を受けました。

令和2年1月頃から兵庫県司法書士会の会長を中心に須藤雄二神戸東ロータリークラブ会長(当時)らが発起人となって叙勲の祝賀会を令和2年3月21日の土曜日に、ホテルオークラ神戸で開催して頂く予定ですんでおりました処、政府の指導による新型コロナウイルスの感染防止予防等のため、祝賀会を中止することになりました。誠に残念無念としか言いようがありません。

就中、神戸東ロータリークラブのコーラス同好会のメンバーが祝賀会に友情出演してくれる予定で、坂本九さんの最後の歌である「心の瞳」と大事MANブラザーズバンドの「それが大事」の二曲の練習会を何度も開催し、メンバーの方々も真剣に練習を重ねていただいていたところでしたので、特別に残念に感じました。又、祝賀会参加者、ご来賓、式次第もほぼ決定し、あとは配席だけというところまで進んでおりました。従って、印刷会社の興正社さんには、受賞者略歴や受章者挨拶を含む印刷資料をお渡ししておりました。

一番力を入れたものは、受賞者の挨拶です。パソ

コンの奥に眠っていたものを今日持参して、このホテルオークラの同じ会場でその一部をご披露させて頂く機会をいただけたことを喜んでおります。神戸東ロータリークラブに入会しててよかったと今日ほど嬉しく感じたことはありません。

ご挨拶文の冒頭は、ご来賓や参加者の方々に対するお礼を申し上げたのち、約50年間の司法書士人生を凝縮したものをまとめました。

大要次のような内容でした。

約50年間の司法書士生活を振り返れば、①司法制度改革、②阪神淡路大震災の被災会員救済事業・被災市民救援事業、③公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートの立上げの三つが思い出深いものとして記憶に残っております。

先ず、①の司法制度改革については、当時の小泉内閣の一大政治課題でありました。プラザ合意に基づいて、アメリカの司法制度を参考にしながら、具体的な変革がなされました。司法制度改革で一番大きな影響を受けた職能は司法書士であります。簡裁訴訟代理権の付与、管財人、管理人に就任出来ることや後見人等に就任できることすなわち司法書士法施行規則の第31条業務が認められたことです。これらの司法書士制度改革が議論されているときに、兵庫県司法書士会会長をさせていただいておりました。総会では、質問に答える必要がありますが、ある会員から、素晴らしい質問がありました。司法書士は登記の専門家と社会から認められている。その上に、簡裁とは言え、訴訟代理権の付与を目指すということは、紛争の中に入っていくことでありその意味を十分に認識しているのか？登記は登記権利者と義務者の合意を前提にして法務局に書類を提出する言わば平和産業である。訴訟代理権は、言わば、利害相反する一方の利益のために仕事をすることであり、ある意味戦争産業を担うことになる。兵庫県司法書士会は、どのような覚悟を決めてすすんでい

るのか?というものでした。その会員は、単に、反対するのではなく、兵庫県司法書士会の覚悟を確認しているのだということでした。紛争解決ツールの多様化、司法書士業務の拡大の必要性等から回答したものと記憶しております。忘れることができない思い出の一つです。

②の阪神淡路大震災の被災会員救済事業・被災市民救援事業に、携わったことも大きな思い出です。

平成7年1月17日午前5時46分に勃発した阪神・淡路大震災によって、当時居住していた須磨区板宿の自宅兼事務所が被災し、2階部分が1階を押しつぶすように倒壊してしまいました。家族5人は2階で寝ておりました処、朝が早かったので、長男が頭に少しけがをした程度ですみました。口の悪い人は、吉田の家は木造2階建てが木造平屋建てになっただけですねと言っていました。司法書士政治連盟の会報に全壊家屋として掲載されました。家族が無事だったという感謝の思い等から、兵庫県司法書士会が行った被災会員救済事業・被災市民救援事業に積極的に参画していったのです。当時の司法書士は何らかの形で皆が頑張っておりました。これも忘れられない思い出の一つです。

③成年後見センター・リーガルサポートの立上げに参画させていただいたことも忘れられません。

リーガルサポート本部の最初の業務審査委員をさせていただきましたし、兵庫支部の初代支部長も担わせていただきました。今でこそ、成年後見と言えば司法書士と評価されておりますが、発足当初は、海の物とも山の物ともつかない状態でした。ただひたすら本部の指導のもと成年後見人の受け皿団体を目指して奮闘したことも忘れられません。

何はともあれ今後とも、一昨年に新たに制定された司法書士の使命である「自由かつ公正な社会の形成に寄与する」ため、老体に鞭を打って頑張りたい

と思いますので、変わらぬご指導を宜しくお願い申し上げます。



## 新設開校された「灘さくら支援学校」と「灘の浜小学校」に オオシマザクラの植樹を行いました



当クラブが長年、支援してきた、神戸市立青陽東養護学校の小学部と中学部、神戸市立友生支援学校の本校の一部、分校の皆様が灘区摩耶海岸通に新設開校された「灘さくら支援学校」に新学期に移転しました。これを機に、地域住民の心を和ませ、地域の景観保全へ貢献すると共に新校舎から巣立っていく生徒・父兄の思い出の地となるよう正門に学校名に因んだ桜の木を記念植樹することができました。実際の植樹と記念プレートの設置は桜の根付きの良い1月に、贈呈式は4月に執り行いました。4月の贈呈式ではコロナ禍でもあり少人数での実施となり

ましたが、鮑会長（神戸東）から灘さくら支援学校の福島勝校長へ目録贈呈、灘の浜小学校6年安岡聖太君から高瀬英夫ガバナーへ感謝の言葉が送られ、灘さくら支援学校高等部1年喜久川大樹さんが「ありがとうございました」と書いた傘を広げると拍手が湧き起こりました。最後に、好天の中、桜の木の前にて参加者全員で記念撮影をして式を終わりました。また、今回の活動が評価され神戸市から花時計賞を受賞することができました。

(2020-2021年度 社会奉仕委員長 植村 浩史)





2020-2021 年度  
国際ロータリー第 2680 地区  
戦略計画・社会奉仕委員長

パストガバナー 矢野 宗司(加古川中央)

## 今、もう一度米山奨学会を考える

米山奨学会についてあまり知らない方もおられると思いますので、まず、事業の推移についてお話します。

1952年、東京RCの会長であった古沢丈作氏が「奨学基金」の試案を作成しました。古沢氏は戦前、大連RCに在籍した時に当時の日本のロータリアンの精神的支柱となった「大連宣言」を作成した人ですが、その精神を踏まえて、この基金が始まり、日本の国際ロータリーの復帰を見ずに亡くなられた日本のロータリーの父である米山梅吉氏の功績を称えて、「米山奨学金」と名付けられました。

将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解してもらうためには、アジアの国から一人でも多くの留学生を迎え入れて、信頼関係を築く、これこそが日本のロータリーに最もふさわしい国際事業であるというのが、事業の基本理念であります。

1957年、日本全国の組織となり、1967年には財団法人が設立されました。2004年、国際ロータリー

理事会でこの事業が賞賛され、以後、国際ロータリーでも認知された事業となります。

米山奨学会の特長は、次の3つです。

1. 日本のロータリー独自の事業（日本全国34地区の合同事業）
2. 日本で学ぶ優秀な外国人留学生を支援し、知日家、親日家を育てて、未来に向かって平和の懸け橋となる人材に育てる。（救貧型奨学金ではない）
3. 世話クラブ・カウンセラー制度による交流の重視（他の奨学金との大きな違い）

奨学生一人に、一つのロータリークラブが「世話クラブ」となり、奨学生とロータリーとの交流の起点になる。奨学生と交流することで、会員の理解も深まる。そして、世話クラブはクラブ会員の中から一人「カウンセラー」を選ぶ。カウンセラーは奨学生の日常の相談役になる。

## 世界に平和の種をまく日本と世界を結ぶ人づくり

米山奨学会は国内最大級の奨学生数を誇り、累計では129の国と地域から21,624人の奨学生を輩出しています。内訳では、上位5か国の割合は、中国34.2%、韓国21.2%、台湾16.3%、ベトナム5.3%、マレーシア4.7%となっていますが、2020学年度883人の上位5か国の割合は中国38.6%、ベトナム13.7%、韓国8.3%、マレーシア5.5%、インドネシア4.1%と、近年では韓国、台湾が大幅に減少し、ベトナムが増加しています。また、アジアに限らず、イタリア、ドイツ、ニュージーランド出身の奨学生もいます。

多くの奨学生を輩出していく中で、親善の懸け橋は着実に育っていきました。現在では、国内に33、海外に9の学友会が生まれ、親睦を深めるとともにロータリーで学んだ奉仕活動を積極的に行っています。また学友からの寄付も累計約4,000万円に達し、239人がロータリアンになり、台湾、韓国から3人



のガバナーも誕生しました。さらに、米山学友を中心としたロータリークラブも台湾に2、国内に3クラブが生まれました。

さて、ここからは私の所属する加古川中央RCと米山奨学生とのかかわりについてお話をします。

私のクラブにとって大きなターニングポイントとなったのが、2010-11年度です。前年まで米山への寄付は一部の役員のみで、一人当たり平均寄付額も11,000円程度でした。会長になった私は、クラブの重鎮に米山委員長をお願いし、この素晴らしい事業は皆で共有すべきであると訴え、結果的に一人当たり平均寄付額72,239円（総額3,323,000円 会員数46名）を達成しました。その年の平均寄付額の2位が神戸六甲RCの32,111円、総額の2位が会員数139名の神戸RCの1,910,000円ですから、いかにとんでもなく集まったかがわかります。しかし、このことによって会員の意識、米山への関心度は大いに高まりました。それ以後も多くの年度で平均寄付額が2万円を超えています。そして、米山奨学生もほぼ毎年お世話をする事になり、好循環が続いています。

お世話をした米山奨学生の中で3人の奨学生との関わりについてお話をします。

1995-96年、阪神淡路大震災の時の奨学生がミャンマーのティン・エイ・エイ・コでした。彼女は後にヤンゴンで日本語学校を設立しています。

そして、加古川中央RCでは、2014年にミャンマーに小学校を設立し、以後も毎年、ミャンマーに出かけて支援を行っています。まさに、米山奨学生が機会の扉を開けてくれたと言えます。

そして、二人目が2013-14年度、韓国からの河昇彬（ハ スンビン）です。最近の日中、日韓関係を思うと、米山への協力をしかねるという声も聞かれます。しかし、日本に留学している中国や韓国の

学生は、ほぼ全員が日本を好きで来ています。そして、学友会の活動を見ると交流の懸け橋は確実に育っています。2017年、釜山での彼の結婚式にはクラブの多くのメンバーと家族がお祝いに行きました。反日の国だからこそ、オセロゲームのように、友好の種を蒔き、その輪を広げることにより、親日家を増やしていくことも大切ではないでしょうか。

そして、2018-19年度、2019-20年度は共にネパールからのPHD 研修生でした。サピナとサルキ、共にカースト制度の最下層の出身で、激しい身分差別と性差別を経験していました。サピナは来日時、20歳の既婚者で国に子供を残しての留学でした。英語もちろん日本語もわからない中で、しっかりとコミュニケーションを取り、帰国する時には日本語もかなり流暢になっていました。今、彼女たちはネパールで女性のエンパワーメントのために活動しています。私たちが必ず支援に行くことと約束しています。

米山奨学生への支援は1年か2年だけですが、交流はずっと続きます。「進学、就職、帰国とそれぞれの道を進みますが、ロータリーでの学びと絆を今後も忘れません。」修了式での奨学生の言葉です。その言葉を聞いて胸が熱くなりました。そして、米山学友会の発足、広がりにより、米山奨学会は新たな段階に入っています。単に米山奨学生への支援だけでなく、その学友会は絆の強いロータリーファミリーとなり、彼らは進んで奉仕活動を行っています。

ポール・ハリスは1946年の国際大会に次のメッセージを送りました。

檜の大樹も小さなドングリから育ちます。41年前にシカゴで植えられた小さなドングリは大きなたくましい檜の木になりました。

米山奨学会も大きな木に育ってきました。そして、実も結んできました。是非、この物語を続けていきましょう。

## 2020年～2021年度 神戸東RCへのあなたの「視点（視方）・考え方」アンケート回答

### ロータリー情報委員会

鮑会長年度、会長の諮問を受け会員の意識調査のアンケートを実施して、これを基としてラウンドテーブル会を開催して神戸東RCの会員である理念や価値観を議論したいと考えていました。それにより一体感のある、今まで以上に強いクラブになって、神戸東RCの魅力、求心力が更に高まり、結果的に「面白い！楽しい！カッコ良い！」クラブになれるのではと思っていました。

ただコロナ禍で昨年度に続き神戸東RCの伝統でもあるラウンドテーブル会が残念でしたが、全く開催できませんでした。

そこでここで会員の皆様に頂いたアンケート回答を広報委員会にお願いをして掲載して頂きました。

この度は回答をまとめたり、集計はせずに会員のご回答をそのまま抜粋して掲載をしています。それにより会員の皆様の多種多様な考え方を共有できればと考えています。

本来ならば頂いた回答全文を掲載するべき所を紙面の都合もあり抜粋という形になってしまいましたが、ご容赦をお願いいたします。

重複回答も多数ありましたがそれは一つにして掲載しています。

### ※あなたが神戸東に入会を決めた動機（視点・考え）は何ですか？

友人からの誘い

知り合いからの誘い

先輩からの誘い

神戸東RCのメンバーに誘われた

神戸東RCに友人がいたから

親族がロータリアンでRCの理解があった

紹介者の熱意に負けて

色々な話が聞けるといふ勧誘を受けて

老若を問わず多様な職業人の方々との親交を求めて

異業種の方との交流

地元企業の会員が多く、長い付き合いができそうだから

地元の名士と知り合いになれ自分にプラスになる

地元神戸の企業人と知己を得て自己研鑽できる。

自己研鑽に繋がる

神戸東RCが魅力的に感じたので

神戸東RCが一番楽しめそうだから

RCの理念が素晴らしいと本で読んでいたので



見識をひろげるため  
知り合いを広める  
友人づくり  
人間関係を広げる  
知識や経験を得て思考を高める  
地元神戸に貢献したいと思い  
会員数と規模が適正と感じた  
男性のみの会だから  
会員の多様性  
伝統ある神戸東 RC 会員と交流から神戸について学び愛したいと思い  
自分の仕事具合と勧誘されたタイミングが合った  
40 歳を過ぎて今後の仕事の目途がたったタイミングで誘われた  
ビジネスチャンスを広げる  
社会奉仕のため  
神戸東 RC は多様な職業人グループのリーダー的職業人で構成されているから

**※あなたにとって神戸東 RC 会員であり続ける価値や意義は何ですか？**

異業種会員との交流  
異業種会員との交流による自分自身のスキルアップ  
異業種の方々から経営だけではなく人間形成に学ぶことが多い  
それぞれの分野で活躍しているメンバーと接して刺激を貰えている  
個性豊かなメンバー各位からの刺激がある  
素晴らしい価値観や視点を有する会員方々と交流できる  
人間関係を通じての人生に充実を感じる  
多数の会員と頻繁に接する事により柔軟な人間性を維持できる  
長く続けることでしか育まれな、何らかの人間関係も有るかもしれないと思い  
地域社会での交友を広げる  
いろいろな職業、幅広い年代の会員と共有する仲間意識  
多様な職業、価値観、性格を持った方々との邂逅に魅力を感じる  
会員相互の信頼関係  
良い友人づくりのため  
人的なネットワークの広がり  
年齢や職業に関係なく、色々な方との交流また活動の中で視点、考え方について  
勉強ができる  
親睦やロータリー活動から、様々な価値観を実感出来る

楽しく毎日を過ごせているので  
 神戸東 RC に友人が多いので  
 良い友人達との交流  
 安心して付き合える、距離感の良いメンバー構成  
 様々な方との交流で知見が高まる  
 RC 特有の職業奉仕の考え方に共感できるので  
 RC 活動理念に共感  
 スケールメリットを活かした奉仕活動  
 神戸東 RC が伝統的職業奉仕理念をまもっているから  
 異業種間の知識・経験の交流によって職業・社会奉仕を可能とすることができる  
 社会奉仕に参画できる  
 会員が地域社会への奉仕活動に熱心でそれに参画できる  
 会費以上のクラブ会員であるだけの内容がある  
 「面白い！楽しい！カッコ良い！」を実践する事  
 様々な業界の方々の話が聞ける  
 社会の最先端の動きや情報が得られる  
 同好会がたくさんある  
 会員からの仕事の依頼が増加した  
 切磋琢磨の場である  
 自己修養と奉仕の考え方の鍛錬  
 長年在籍しているが違和感はないので  
 中途半端で退会は自分らしくないので

**※あなたの神戸東 RC 会員であり続ける「価値や意義」の体現は具体的に、何をどうすることですか？**

与えられた自分の役割を自分の出来る範囲で対処して、その成果について冷静に分析する  
 充実した楽しい「例会」運営に努力して協力すること  
 年 4 回のラウンドテーブル会の開催、全会員は必ず 2 回以上出席すること  
 二つ以上の同好会に参加して活躍する事  
 正直に生活すること  
 毎週 1 回、同じ所に集まり同じ歌を歌い同じ物を食べ、同じ話を聞くこと  
 出来るだけ例会、事業委員会に出席する  
 まずは例会に出席をし、知り合いを広めること  
 倫理性の高い会員の集まりにすること  
 あまり消極的にならないこと  
 クラブライフが楽しめるようにする



卓話が勉強になる中身であって欲しい  
社会奉仕活動にもっと積極的に参加する  
積極的に奉仕活動に参加していくこと  
良好な人間関係を築き維持する。  
良好な人間関係の中でロータリーの理念を実行する  
職業奉仕の理念の重要性を説き、実践する。  
会費を支払う価値のあるクラブであるべき事を毎年の執行部が共有して模索すること  
世代を超えた親睦、奉仕と親睦のバランス  
神戸東 RC の理念を作り、細則の頭に明記する  
RC を私的なことに悪用しないように会員教育が必要  
継続事業は勿論、奉仕活動もマンネリ化しないように新しい奉仕活動も考えていく  
RC 活動に関心を持ち続ける  
近年変わり急ぐロータリーという組織の動向にも関心を持ち続けることが重要  
市民や色々な組織と連携して具体的で目に見える、又価値を感じてもらえる奉仕活動が必要（対外奉仕活動）（広報・ネットワークの活用）  
会員であり続けること  
お世話役を育てる  
親睦を基礎とする社会奉仕・職業奉仕の価値や意義を体現する  
神戸東 RC の運営の一旦を担う  
出来るだけ地区委員になり地区や RI のことなど見聞を広める  
卓話は世情に合った内容で会員が知りたい内容が望ましい  
例会を面白く！親睦が楽しい！奉仕活動がカッコ良い！共感と出来ること  
クラブ活動に「価値や意義」を感じられること

### ※あなたが考える神戸東 RC の良い所（魅力）は何ですか？

規模的、年齢的にもバランスの取れた組織  
自由闊達な雰囲気溢れて、閉塞感・拘束感を感じない  
若々しくアクティブである  
老若を問わず仲が良い  
友好的な会員が多い  
メンバーの方々の穏やかな人柄  
奉仕活動（すべての RC 活動）に真面目で熱心  
課題を与えられると全員がそれを解決する  
意見は言っても陰口、悪口を聞かない  
クラブに付随する多くの同好会、むつみ会、春秋会、冬夏会により醸し出される

多様性

倫理性・寛容性・多様性が高い会員が多い

男性のみの会だから、少年時代のように、つまらないことも気楽に話せる

地元企業の会員が多く、継続率が高いので、長くお付き合いができる

三世代交流が楽しくできること

会員数が多いのに派閥的なものがなくて自浄作用がよく効いている

先輩方が築いてきた派閥などが感じない人間関係が永く続いている

RC に関しての個人個人の多様な関わり方を許容してくれる

同好会が多く活動が活発

奉仕と親睦のバランスが良い

多くのオープンマインドの魅力的な会員が多い。

入会年度の浅い会員にも気安く接していただける会員が多くいる

地域の職業人社会で高い職業知識と職業倫理意識を持つリーダー的職業人が多様な職種に亘り集まっている

会員が職業を通じて地域社会に奉仕

メンバーの質

定款に沿って運営が出来ている

多様性がある

会員数が多い

会員同士がリスペクトしあっているところ

会員数が多いのに家族的である

形式ばらない。ザックバラン。しかしロータリーの基本理念がしっかりしておりそれに基づく行動がされている

高齢の会員であっても前向きである

神戸東 RC の歴史を大事にしている

コロナ禍に対する様々な対応にも魅力を感じた

会員の考え方に偏向がない

フランクさが有り懇親が行き届いている

会員数が多くそれが長年維持されている

見習うべき、尊敬できる会員が多くいること

(順不同です)



## 上月 福男 会員

神戸東ロータリークラブの皆さん、コロナで大変ご無沙汰しております。私は、この6月に満80歳を迎えました上月福男です。

この度「お誕生日お祝」を頂きまして有難うございました。コロナ、コロナで、この一年半、事態は実に大変でした。

ワクチン接種開始のお陰で、やっと、この秋口には出口が見えるかもと「プラス思考」をしております。

振り返れば、この10年は私の人生で最も厳しい10年でした。72歳まで疲れ知らずで中国からの食品加工メーカーさん向け原材料の輸入に、毎月半分位、中国出張で走り回っていましたが、①数え72歳の春に「膵臓がん」診断で5月手術（これは完全成功）が、12月初め「肝臓に二か所転移」で、腫瘍部長医師より「余命3か月の宣告」を受け、悪戦苦闘の挑戦が始まりました。②そして77歳の春、「腎不全（腎臓機能が1/3に低下）で、3年先には人工透析かも」と腎臓内科部長の診断、6月に家族での喜寿の祝の席で「どうも人生は80年になりそう。3年先人工透析までして無理な延命はしたくない」と皆に宣言し、第二の挑戦になった。③この一年半「コロナにかかると腎不全の為、即重症化か生死に直面かと言う恐怖」の中で第三の挑戦をしています。この「三大難関事態」をラッキーにも切り抜けましたが、どんな成り行きがあったのか、皆さんに何かの参考になればと思い書きました。

### 1. 「膵臓がん」

①72歳の5月に手術は大成功。しかし、抗がん剤（ジムザール）が効果見えず転移が心配の中、②8月（塚本さんが数十年ぶりに犬の散歩途中と急に寄ってこられ、会長になったので新入会員登録頼む

よで、即OK）。③12月初め（肝臓2か所転移で、余命3か月宣言受ける）。④手術病院と「何とか重粒子治療をと何度も交渉するも、過去受け付けも拒否され実績なしで、絶望の中」で、⑤12/8（そんな中、神戸東ロータリークラブの例会に新入り初出席。塚本さんが、いい人紹介するわと三戸岡先生と初対面）。⑥その後、抗がん剤ジムザールに代わる「ST-1」（一年前静岡大学医学部が臨床試験で効果あるかもの情報で）（12月、もうイチかバチか、切り替え決意）、（抗がん剤の副作用—食欲不振、極度の倦怠疲労感、脱毛が不思議なことになし。唯一つ表出皮膚がかなり黒変するのみ）、（手術前に逃亡して全身の何処かに潜んでいる潜伏中のガン細胞の制御に、不思議なことに想定の数倍の効果を発揮?）。⑦翌年2月の卓話【兵庫県重粒子センター所長の卓話—「やっと膵臓がんの治療の目処が確立できました」との言】（早速 塚本さんに今日の卓話の紹介者はと）、（三戸岡先生と分かり、塚本さんに再度仲介を依頼し、膵臓がんの経緯をお話しし、治療対応可能か依頼を）。⑧CD経過資料を揃え、兵庫県重粒子センターでの初診で「治療効果はMAXで80%、2か所だから64%だが膵臓がんなので、成功の可能性は半分以下の前提での治療になります」と。取敢えず、今更何でもOKの心理。⑨照射治療の最終診察で「担当者達の徹底したカンファランスと綿密な照射box作成と最適厳密照射の結果報告によると、先ずは99%効果治療が出来ました」と聞き、びっくり仰天驚嘆。【この重粒子線治療の貴重なお陰と「ST-1」の想定外治療効果と親から貰った強健体力の中で、前述の各各の不思議なラッキー強運の連続のお陰で何とか勝ち抜き、8年目になりました】（この重粒子線治療が出来てなければ、今あるかどうか疑問といえる位、決定的な治療でした）。

### 2. 「腎不全」



(77歳の春)で「3年後には、人工透析必要かもと診断を受ける」。家族による喜寿の祝の席で「私の人生は80歳で終わりか」と、自分の覚悟を示したものの、いろいろのお医者さんに治療法を尋ねても「塩分調整と食事改善と水分補給だけ」、「治療薬は一切なし」で、「再度、ええとなった」。それなら臍臓がんで頑張ったんだから自助努力で、この大病に挑戦するしかないと決心し決意し、①そこで考えたのが「自分が腎臓の身になって、腎臓がどうして欲しいのか」考えればその道筋が見えそうと。②「腎臓機能力が1/3レベルで頑張っているなら疲れるやろな」と、なら「日中中間で昼休みを。即ち、横になり昼寝してやれば腎臓も小休止で、午後は腎臓に余裕が少しでも出来るだろう」と。③腎臓はフィルター機能だからコーヒーのドリップ同様、ドロドロ血液より温かいサラサラ血液で、腎臓ろ過機能疲労も軽減出来るなら「冬場はカイロを使い、体のホカホカ感を保ち、夏場は冷却防止にカイロで腎臓をサポートしてあげよう」と。④「腎臓が機能力1/3で頑張っているなら、相当疲れているやろな」。なら、軽くマッサージして、その摩擦熱を腎臓に伝え、ストレスを抜いてあげようと、週2-3回就寝時にベッドの端に座り、握り拳で腰裏(腎臓の位置)を100回位マッサージをして「今日もありがとう」と伝え、就寝。起床時には「今日も 元気で頼むよ」と声掛けしてあげる。⑤すると不思議な事に、e-GFRが毎年数値4位づつ悪化していたのが、悪化停止維持となり、2年で逆に数値が4回復で回復傾向に。⑥腎臓内科担当部長が「上月さん、最近不思議な事が起こっているんですが、何かありましたか」と問いに、前述の自助をお話ししましたら「いやいや、それは理に叶っていますね。実に、理に叶っていますよ」と。⑦「私の人生は80歳で終わるのか」と覚悟していたが、一応84/5歳まで延長の可能性が出た？2度もの余命の延長で、人生15年位生き

延びれる結果に繋がりそうです。やはり「自助もキーですね」。

### 3. 「コロナ」

腎不全患者にとって、コロナに罹ると即重症化が生死に直面の恐怖があり、「二重マスク、消毒スプレー、薬用ウェットティッシュの持ち歩き、外出帰宅時玄関で消毒、着替えで何とか今まで切り抜け、最近ワクチン接種が始まり、トンネルの出口、光がやっと見えてきました。

4. 人生80歳代に乗りますと、身体能力一段の低下を感じ、何かやる度に「やっぱり歳か」と、自分をなんとなく追い込んでいくのを止めようと、「プラス思考しています」が、新たな問題、BNPが高くなり始め、次は心臓との挑戦が待っているようです。挑戦は仕事だけとと思っていましたが、「人生終わるまで挑戦は続く」ような中、「まだこんなに元気や、まだこれもできる。これもやってみよう」と。「実感力こそ生命力」と考え、積極的に前向き意欲を無理せず高め、スムーズな老後を築きたいと希望しています。

5. 認知症予防も兼ねて、最近やり始めている事があります。①就寝時に頭・胸・腹部を撫でながら「今日も有難う」と。②そして、起床時にベッドの上で「腕・胸・腹部のストレッチ、腹筋運動、頭・胸・腹部を撫で、ウォーミングアップ。そして「今日も頼むよ」と。③認知症予防のため、毎朝朝刊2紙の重要情報を見て、読んで、理解して、ポイントを要約して「情報記録サブノートに記録」と「読み書き高難度漢字の写し書き留め一覧表」作成に励んでいます。

最後に「この度の命の恩人 塚本さん、三戸岡先生に深く感謝を申し上げ」筆をとどめます。



## 『面白く！楽しく！カッコよく！』 最初で最後の親睦会を開催しました



2021年6月29日午後6時から、神戸メリケンパークオリエンタルホテル瑞天の間において、『面白く！楽しく！カッコよく！』でお馴染みの鮑年度において最初で最後の親睦会を開催いたしました。

コロナの影響を受け、様々な催し物が中止となってきたため、1年9か月ぶりとなる親睦会となりました。

蔓延等防止等措置の制限を尊重し、ノンアルコールでの開催となりましたが、60名の会員が参加し、久しぶりに神戸港の夜景を見ながらの会食や、ゆっ

たりとした会話、ジャズの生演奏を楽しんでいただきました。

長期間にわたる自粛要請を厳格に守ってきたことで、飲酒の機会が減っていた為か、『自然と減量に成功した！』や『結果的健康的になった！』等の出席会員による会話は、目の前にある環境をポジティブにとらえて、果敢に前進するロータリアンの漂々しいライフスタイルが垣間見えるものでした。

(2020-2021年度 親睦委員長 渡邊 英一郎)





▲ 2月9日「社会体験としてのキャンプ」  
YMCA 阪田晃一氏



▲ 3月9日「内外債権動向～足元の金利上昇は本物か～」  
細田和弘 会員  
大和証券株式会社 金融市場調査部 谷栄一郎 氏



▲ 2月16日「がんになった緩和ケア医が語る」  
関本剛 会員



▲ 3月16日「ロータリーにおける危機管理」  
田中賢一 氏 (伊丹RC)



▲ 3月2日「現代（いま）だからこそその熊野の役割」  
熊野本宮大社 宮司 九鬼家隆 氏



▲ 3月23日「コロナはビジネスの本質を変えるのか？」  
株式会社 トップ支援 代表取締役会長 山崎修一 氏  
(大阪鶴見RC)



▲ 3月30日「コーチの存在」元デビスカップ日本代表  
プロテニスプレイヤー 武 鑑 正 芳 氏



▲ 4月20日「麒麟ビールの復活」  
田 島 勝 也 会 員



▲ 4月6日「相続の話」  
有限会社 p'z コンサルティング  
代表取締役税理士有資格者 藤 原 雅 司 氏



▲ 4月27日「潜水艦設計者よもやま話」  
川崎重工業(株)船舶海洋カンパニー 湯 浅 鉄 二 氏



▲ 4月13日 創立67周年記念例会



▲ 5月11日地域の文化資源としての「神戸洋家具」  
神戸芸術工科大学 教授 佐 野 浩 三 氏



▲5月18日「映画ビジネスの裏話」  
梶野孝人 会員



▲6月15日 マリンバ演奏  
マリンバ奏者 間瀬尚美氏  
マリンバ奏者 島田菜摘氏



▲5月25日「企業再生と変革」  
(株)TASAKI 執行役副社長 飯田隆也氏



▲6月22日 落語  
桂 団朝氏



▲6月1日「家主業 私のスタイル」  
鈴木祐一 会員



余韻会 (俳句同好会)

令和三年二月分 投句会

登校の声が薄氷とかしゆく 奥田 好子

とりあへず熱爛熱爛マスク取る 畑崎 青峰

赤信号向うの冬空あかね色 角田 伯堂

薄氷を踏んで登校ランドセル 則岡 弘士

薄氷の底に命の気配見ゆ 塚本 宗哲

薄氷に一人たたずむ魚釣 松谷 泰山

玉砂利の奥へ奥へと梅見かな 神田 淡京

薄氷の下に動きし泡二つ 村野 離翔

薄々と張った氷の情景が上手く一句に表われています。泡二つの動きが春への躍動と命の存在が連想され、薄氷でなければ発見できなかった句で素晴らしいです。

余韻会 (俳句同好会)

令和三年三月分 投句会

蒲公英やそつと止まりぬ三輪車 奥田 好子

飾られて老ゆることなきお雛様 執行 執艸

人間と違い人形は歳をとらない、心情の深い句です。

踏まれても平たく咲ける鼓草 角田 伯堂

たんぽぽのたくましが平明に叙されて素晴らしいです。

雛まつり孫の成長重ねをり 松谷 泰山

そよ風や蒲公英の絮つれて行く 神田 淡京

タイミング見計らってる雛納め 高橋 恵信

たんぽぽの野の黄やいつか絮の白 村野 離翔

たんぽぽが咲き一面に広がった野の情景がいつしか絮となっていたという作者の発見と野のたたずまい描けています。黄と白のコントラストも鮮やかです

余韻会 (俳句同好会)

令和三年四月分 投句会

新しき無辺世界や春の空

奥田 好子

覚悟して開きなほりぬ朝寝かな

執行 執艸

うっかり寝坊してしまった作者の心の推移が読み取れます。  
大胆な朝寝のさまが切れ字により余韻豊かな一句に仕上がっています。

そこはかと珈琲香る朝寝かな

角田 伯堂

一年生白赤帽子春の空

則岡 弘士

名詞だけで仕上がっている一句です。動詞を使わなくても、一年生の生々した様子が新鮮に伝わってきます。

朝寝坊とは嬉しくも淋しくも

塚本 宗哲

待ちどほし吉報一つ春の空

松谷 泰山

朝寝して夢の続きを再生す

神田 淡京

寛ぎて眺むるばかり春の空

村野 離翔

一読して長閑な春の空を見上げてらっしゃる光景が目には浮かびます。  
心身の明るさまで描けています

余韻会 (俳句同好会)

令和三年五月分 投句会

鎮もれる山河に遊ぶ鯉幟

奥田 好子

朝嵐去つて躍るや鯉のぼり

畑崎 青峰

廃屋の庭に一幹楠若葉

角田 伯堂

「廃屋」と「若葉」の対比が読み手のイメージを心地よくしてくれます。  
明暗の妙、過去と未来の今が楠若葉に描けています。

我が歳と同じ歳なり武者人形

則岡 弘士

当たりまえのことに気づかれた作者の年輪が伺えます。  
「武者人形」に守られて来た人生の感謝も伝わってきます。

空高く河辺自在に鯉幟

松谷 泰山

初鯉藁の香りも酒のあて

神田 淡京

わら焼きの香り絶品初鯉

高橋 恵信

初鯉糶のだみ声活気づく

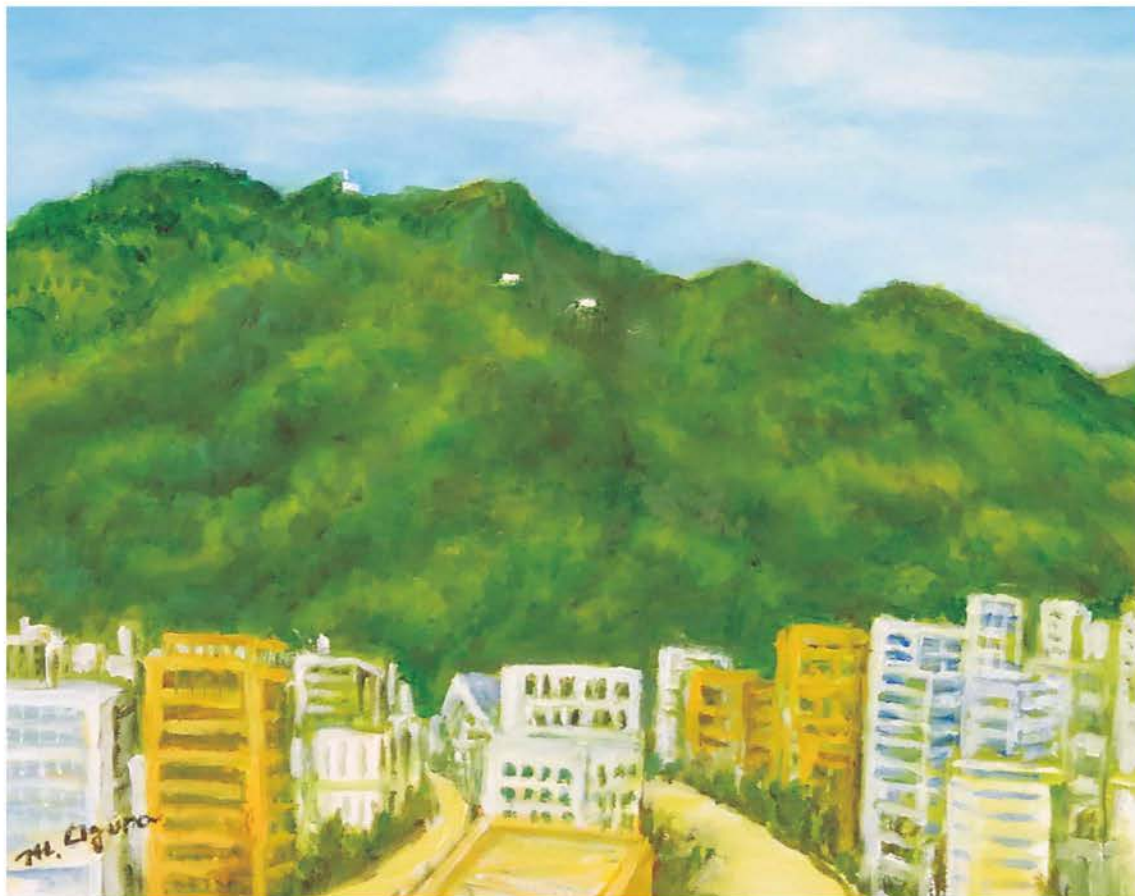
村野 離翔

上五に「初鯉」と詠い上げ、後はその情景を描写され平明にして重みのある一句に仕上がっています。作者の感情が入っていきなくても初鯉への思いが響いてきます。

※寸評は奥田先生です。







絵と文 小倉 宗夫

### 「新緑の摩耶山」

この絵はJR 摩耶駅の2階コンコースからガラス窓越しに撮ったスナップを8号大の油絵にしたものです。山頂と山腹の白い建物らしきものは夫々ロープウエーの山頂駅と、ケーブルの乗り継ぎ駅ですが、実際は緑の樹々に被われて見えません。手前の市街はすべて虚構です。「こんな街だったら良いのになあ」と思って描きました。

## CONTENTS

会長就任挨拶	1
副会長就任挨拶	3
幹事就任挨拶	6
前年度会長退任挨拶	7
前年度副会長退任挨拶	9
前年度幹事退任挨拶	11
4大奉仕委員長就任挨拶	12
職業奉仕月間に因んで	17
灘さくら支援学校・灘の浜小学校の植樹会	23
今、もう一度米山奨学会を考える	24
会員アンケート報告	26
会員随想	31
鮑年度打ち上げ会員親睦会	33
例会スナップ	35
余韻会	38

## 編集後記

昨年に引き続き合併号という形で第1号をお届けすることができました。

2020-2021年度はコロナ禍であっても、例会を休会にすることもなく、時にはオンラインで、面白く楽しくカッコよく継続できました。今年こそは1年を通して、会場でふんわりわくわくと参集したいですね。

広報委員長 和田 真一